第1851回 2019.01.29

Rotary:Serving Humanity

半田南ロータリークラブ ●創立：1980.2.12 ●認証：1980.2.25
■会長／山本 慎治 ■幹事／蜷川 勝己 ■例会／毎週火曜日 半田商工会議所
愛知県半田市銀座本町1の1の1（半田商工会議所内） TEL.（0569）21-0324 FAX.（0569）23-4546
2018-2019

●司　　会　　S.A.A　榊原顕太郎君
●ソングリーダー　　榊原顕太郎君
●ロータリーソング　「手に手つないで」
●今月の歌　「四つのテスト」
●ピアノ　中田　美由紀さん

会長挨拶

会長　山本　慎治君

挨拶文はホームページの会報で閲覧できます。

●出席委員会

第1851回例会　１月29日（火）　天気（晴）
本日の例会は29名の出席にて、出席率は82.58％です。なお、前々回は５名のメーキャップにて100％に訂正します。

●Smiling Box

永田　明世君　本日は卓話です。石川さんと２人で担当します。間違いがあったら指摘して下さい。

近藤　敏通君　前回の夜間例会インフルエンザの為残念ながら出席できませんでした。ドアの外でガラスごしに皆様の笑顔を１人さみしくハイケンしていました。

石川　信行君　来週は欠席させていただきますので妻の誕生日祝いのコメントを出させていただきます。永田明世さん、２月５日SBの発表をよろしくお願いいたします。

石川　勝彦君　祝大阪なおみ全豪オープン優勝日本人男女初の世界ランキング初の一位、明るいニュースは良いですね。

都築　利全君　本日は欠席予定でございましたが、蜷川幹事が「今度の例会食事は、石川屋のとんかつが乗ったカレーライスです。」の言葉に、思わず出席してしまいました。

鈴木　宏司君　一時間前にセントレア到着しました。タイ～台湾、40周年事業も見すえていろいろな事業を見学してきました。

山本　慎治君　先週の新春夜間例会、都築親睦委員長はじめ委員会の皆さん、楽しい企画を有難うございました。４月１日の新元号公表が楽しみです。

川澄　哲裕君　１月25日、地区会員増強委員会会議に出席しました。私は７月からの担当ですが、この委員会事業が７月にある為、前倒しで会議を進めているということです。当クラブと地区委員会の会員増強に取り組むことになりました。それぞれの目標を達成してまいります。当クラブは、２月の１か月間会員増強月間になります。会員全員で取り組んで、仲間をあと３人増やしましょう。

蜷川　勝己君　23日からバンコクに行って来ました。参加した皆さんに大変お世話になりました。何と24日にインフルエンザになり大変でした。タイの友人にうつしてしまいました。

松林　信吾君　ブンクムRCとチャラナコーンRCの例会に参加して来ました。ともに歓待して頂き、有意義な訪問になりました。同時にインフルエンザをタイに輸出する事になった事は誤算ですが。反省。

合計11名　　21,000円

卓話

演　者　永田　明世君　　石川　信行君
演　題　「南佐久ロータリーとの姉妹提携について」

米山功労者表彰　川澄　哲裕君

次回の例会

第1853回例会　創立記念夜間例会
２月12日(火)　於：浜潮

２０１９/０１/２９

第２５回　会長挨拶

　今年も、東京ロータリークラブ熊平雅人様より
「抜萃のつづり」をいただきました。

　本日は、株式会社熊平製作所様の創業１２１周年記念日にあたりますので
「抜萃のつづり」を紹介させていただきます。

１９３１年からほぼ毎年１冊ずつ出しており、８０年以上の歴史を誇る。
一代で国内金庫会社を築いた創業者の熊平源蔵（１８８１～１９７８年）の思いから始まった。

創刊号は取引先へ
　小学校しか卒業していない源蔵は、幼少時から本に親しみ、感銘を受けた文書をスクラップにしていた。「自分の元だけにおいておくのはもったいないと」。

　そう思い立ったのが小冊子作りの始まりだと伝え聞く。
創刊号の発行部数は３千部で、友人や取引先などに配った。
とうしょは毎年出すつもりはなかったようだが、評判がよく３７年に２号発行。

　創業８０周年の７８年には８０万部を刷った。
大きさはＢ6判で１２８ページの体裁は創刊から変わらず、現在は４５万部を発行する。

　編集部の責任者が２００９年退くことが決まり。当時、小冊子作りを担当する管理部長の宮脇保博氏が引き継いだ。

選定基準は生の喜び
　編集人の仕事は毎朝、新聞に目を通すことから始まる。
全国紙 5 紙と地元紙だ。そして「暮らしの手帳」などの月刊誌を毎月 20 冊ほど、さらに源蔵が仏教に関心を寄せていたことから、「禅の友」など宗教の専門誌も手に取る。

選定の基準は、生きることの喜びや希望を覚える感銘深い文章かどうか、だ。1年で２５０～300本の量になる。最終的にその中から宮脇氏が40本近くを決める。

転載承諾に骨を折る

掲載する記事が決まると、今度は転載の承諾をもらうために、版元や筆者と連絡を取る。これが最も骨が折れる。発行の趣旨を理解してもらう必要がある。筆者は著名人から無名の一般の人まで幅広い。

無償で転機をお願いするため断られることもままある。一方で、快く許可を出してくれる人もいる。

反響は大きく、毎年一千通を超える礼状が届く。
「ちょっぴり涙したり、笑顔になったり、力づけられます」と宮脇氏は語る。

バブル経済崩壊後など苦しいときもあったが、会社は発行のための年間予算を４千万円計上し続けてきた。

宮脇氏は仕事を通じて社会に奉仕・貢献するという創業者の熊平源蔵の理念を継承していきたいと語った。

２０１８年2月１日
日本経済新聞「文　化」より

本日、いただいた「抜萃のつづり」で７８号を迎えた。
ここに改めて、株式会社熊平製作所様に心より感謝御礼を申し上げます。
ありがとうございました。